大正５年５月５日木藤精一郎創立

やまゆき会会報

平成 30 年７月号

例　会　報　告

やまゆき会創立 102 周年記念日　六甲集中登山＆懇親会

5 月 5 日　創立記念日「木藤精一郎」記念碑前（六甲・高座ノ滝）に 3 コースから参集

5 月 5 日（土・祝）　晴れ　担当：やまゆき会会員一同　参加者 54 名

総括担当：北川隆史　参加者 56 名

大正 5 年 5 月 5 日のやまゆき会創立から 102 年目にあたるこの日、六甲最高峰への表玄関である高座ノ滝に集中登山 3 コースを終えたメンバーが 14 時までに参集した。ここにはやまゆき会を創設した木藤精一郎の記念碑があり、やまゆき会にとって特別の地である。

懇親会は 14 時前に開会、原田会長の冒頭挨拶に続いて、本日の 3 コースの例会担当者から、救急要請訓練（山行時に傷病者発生との想定）の実施状況を中心に山行報告が行われた。緊急時の対応準備と心構えに必要な訓練は、今後も創立記念日山行の恒例とし、「行きかう山行者の活動と安全を見守り願う」と刻まれた木藤精一郎記念「山行」碑文の趣旨を確認し、安全登山への誓いを新たにする機会としたい。

阪下幸一名誉会長による乾杯の音頭で懇親会が始まり、心置きなく山話に興じる楽しいひとときを過ごした。集合写真を撮り、皆でゴミ回収など行って 15 時 30 分頃に解散した。

六甲集中登山：住吉川本谷　中級 C

5 月 5 日（土・祝）晴れ　担当：藤堂　節子　参加者 10 名

本日はコースが長く、遭難救助訓練を実施し、午後 2 時前には高座ノ滝に到着したいということで、御影駅では参加人数を確認後すぐに出発した。住吉山手の住宅街を北へ進み白鶴美術館へ向かう。住吉川沿いの白鶴美術館駐車場で準備体操をし、コースと予定時刻をお知らせ、水分摂取後出発。ここからは住吉川に架かる橋を何度も渡る。川に目をやると急流で美しい渓谷が見られるが河畔には高層マンションが続く。やがて狭い急坂の山道を登り、平坦で広い道に出ると頭上には満開のモチツツジが美しい。「太陽と緑の道」を進むので道標が整備されている。五助堰堤で水分補給と立ち休憩。堰堤を越えると湿原に木道が架かりのどかな風景が広がる。左に住吉川を見ながら樹林帯を登り、本庄橋跡をめざす。本庄橋の堰堤を越す

と六甲最高峰への分岐があるが、本日のコースは土樋割峠まで北進しここからＶターンで東おたふく山へ向かう。

本日の最高峰の東おたふく山で昼食後、遭難救助訓練を実施した。119番への救助要請、ヘリコプターへの合図、西山さんに胸骨圧迫の心肺蘇生法を実演していただく。予定通り正午過ぎに東おたふく山を出発したが、雨ヶ峠を過ぎた辺りからすれ違う登山者がどんどん増加し、風吹岩では岩の上も鉄塔広場も満員状態で歩行時間がかかってしまった。ロックガーデンでは混雑が予想されたので塚田さんに教えてもらい中央尾根を避けて下山し、高座ノ滝に予定通りの午後 2 時前に到着できた。

歩行速度が少し速くなったが、参加者の皆さんご協力ありがとうございました。

コースタイム

阪急御影駅(8:35)～白鶴美術館駐車場(8:45-8:55)～五助堰堤(9:45-9:55)～本庄橋跡(11:05)～土樋割峠(11:15)～東おたふく山・697m（11:25-12:05）～雨ヶ峠(12:20)～風吹岩(13:05-13:15)～高座ノ滝(13:45)

六甲集中登山： 打越山

5 月 5 日（土・祝）晴れ　担当：松川元信　参加者　24 名

阪急・御影駅を予定時刻に出て深田公園で朝礼、体験参加者の紹介を行い、参加者を2班編成とした。多数の参加者を、安全なペースで高座ノ滝に懇親会開始時間の 14 時前に到着しなければならない。このコースは思いの外距離が長く時間がかかる点とロックガーデンの混雑をクリアして予定時刻に到着するペース配分を念頭にリードする。白鶴美術館を越え、落合橋から住吉川に沿い進み六甲山最高峰に向かうコース分岐から離れ住吉川に下り橋を渡り打越山（480m）に向かう。山頂で集合写真を撮り、予定より進行が遅延しているため七兵衛山登頂の中止を案内する。打越峠から七兵衛山裾を回り木洩れ日広場で昼食を

とる。

横池で緊急事故対応を行った。胸を痛めた急病人の心肺蘇生を行いながらヘリコプター搬送の要請訓練を行う。又、参加者に緊急カードの携帯の順守を案内する。終了後、風吹岩から下るが対向者が多いためロックガーデン中央尾根からの下山を避け、高座谷に降りて川に沿って下り中央尾根末端に出て高座ノ滝に到着した。

コースタイム

阪急御影駅(9:00)～深田公園(9:05)～白鶴美術館(9:45)～落合橋(9:50)～住吉川(10:40)～打越山(11:20-11:30)～木洩れ日広場(11:45-12:10)～横池(12:30-12:45)～風吹岩(12:55)～高座谷(13:10)～高座ノ滝(13:40)

<u>六甲集中登山： 会下山遺跡</u> 初級 B

5 月 5 日(土･祝)晴れ 担当:藤井眞紀子 参加者 20 名

10 時 30 分、阪急芦屋川駅は集合時間が少し遅かったお陰で団体は私達だけだった。

川沿いを 10 分程歩き、公園で準備体操を行い出発した。とても良いお天気で風が心地よい。

その後もしばらく川沿いの道を歩き会下山遺跡へと歩を進める。少し遠回りにはなるが、住宅街を通り抜けるよりも道が分かりやすいので、この道を選択した。

三条北公園の木陰で休憩をとる。日差しは照りつけるがそんなに暑くはない。そして、霊園の横を通り会下山遺跡の入口へ。イノシシ除けの柵を開けて中へ。結構急な山道が続いており、ゆっくり登る。10 分ほどで会下山遺跡に到着。弥生時代の高地性集落跡で、竪穴式住居跡が7棟、倉庫･墓･ゴミ捨て場などが発掘されている。標高の高いところにあるこの村は大変珍しく、全国的にも有名な遺跡だそうだ。

ここで集合写真を撮った後、時間が十分あるので展望の良い遺跡の一番上(祭祀場跡)まで登ることにした。ようやく登りきる手前で、傷病者が突然倒れたので、全員に訓練であることを説明し待機してもらい、救助要請訓練を始める。傷病者の介護を参加者二人に任せ、先日の学習例会で学んだ救助要請手順にもとづきヘリコプターを要請する。ヘリコプター到着後、傷病者を搬送し訓練を終える。反省としては、傷病者と詳細に計画を立てていなかったため、狭い登山道の途中での作業だったので、他の方には様子が分かりにくかったと思う。ヘリコプターの要請等に関しては訓練後、Kさんが補足説明をしていただき、皆さんに伝えることが出来て良かった。

訓練後、昼食とした。今日は少し霞んでいたが、眼下に芦屋の市街地から大阪湾が一望できた。この祭祀場跡まで来られた方が少なかったので登ってきて良かった。ゆっくりお昼休憩を取った後出発した。新緑が美しい高座川にそって歩き、創立記念式典が行われる高座ノ滝に到着した。

コースタイム

阪急芦屋川駅(10:35)～公園(10:50-10:55)～三条北公園(11:13-11:25)～会下山遺跡入口(11:30)～会下山遺跡(11:40-12:45)～高座ノ滝(13:30)

<u>六甲山地：　山羊の戸渡り</u>　中級C

5月８日(火)　曇り一時時雨　担当:宮本信夫　参加者３名

昨夜の雨で地蔵谷の渡渉ができないことが予想されるため、コースを天狗道に変更する。山羊の戸渡り入口のカーブ No.45 の先までタクシーで行く。準備を整えて、取りつき点へ向かうが、その手前の都賀川が大増水で渡れない。この時期にこのコースを企画した目的は、シロバナウンゼンツツジを見に行こうということであった。そこで、アイスロード入口まで引き返し、一ヶ谷道を登り、摩耶山から山羊の戸渡りを下ることにする。

アイスロード入口から急な坂を登ること 25 分で展望山からの尾根に出る。ここからは比較的なだらかで落ち葉の降り敷いた道を登り六甲山上駅横のバス停に着く。5 分で摩耶山行きのバスが出るので長い舗装歩きをカットするため神戸市立自然の家までバスに乗る。自然の家の運動場を横切り尾根に取りつくと5分ほどで山羊の戸渡り尾根の分岐に到着。15 分ほど下った左手にシロバナウンゼンツツジの木が見えるが、今年は暖かかったため、花はすべて落ちてしまった後だった。来年以降再度計画することにして、すぐ先のピークで休憩、摩耶山へ引き返す。山上広場で休憩の後、天狗道から市ヶ原、布引の滝を経由して新神戸駅で解散する。途中の五本松隠れ滝や布引の滝もすごい水量であった。

コースタイム

山羊の戸渡り入口(9:22-9:30)～アイスロード入口(9:43)～一ヶ谷道分岐(10:00)～
六甲山上駅(11:00-11:05)＝神戸市立自然の家(11:22)～山羊の戸渡り往復(12:30)～
摩耶山上広場(13:13-13:20)～学校林道分岐(14:05-14:10)～市ヶ原(14:54-14:58)～
新神戸駅(15:45)

六甲山地：　甲山　初級Ｃ

5 月 12 日（土）　担当：越後富美子　参加者　27 人

集合駅で点呼を取り、三班に分けて車道脇を通り北山公園入口に向かいました。公園入口で準備体操をして登山道に入って行った。樹木の緑が鮮やかで、時折吹く風が気持ちよかった。北山池は3つありそれぞれの池の間には橋があるので、その橋を縫うように渡っていき花見広場で休憩を取りました。北山ダムを目指し木陰を作ってくれている道を進んでいく。

北山ダムでトイレ休憩をして、出発前にこれから登る甲山をバックに集合写真を撮りました。

山頂まで階段が続き、途中立ち休憩をして呼吸を整えながら山頂に到着しました。木陰で昼食を取りました。その後ロープの結び方、使い方を原田会長から、遭難者の対応について北川隆史さんから講習がありました。遭難者に対して意識の有無を確認する為の呼びかけ、次に心臓マッサージのやり方（菅生さんが演示）、遭難者が動けず救助要請（119 番ではなく 110 番）をして、ヘリコプターが必要になった時の収容時の対応が説明されました。緊急カードは山行に必要なアイテムだと再認識させられました。携帯していない会員には記入用紙が配られました。甲山森林公園展望台からの景色を眺め、地すべり資料館へ降りて行きました。資料館を以前に見学した方もいたので、ここで解散としました。

初めての例会担当で緊張しましたが、怪我もなく無事に終了出来ました。

コースタイム

阪急甲陽園駅（9：40）～北山池（10：35-10：40）～北山ダム（11：15-11：25）～甲山(11:50-12:55)～甲山自然の家(13:20)～甲山森林公園(13:30-13:35)～展望台(13:50)～地すべり資料館(14:10)

比良山地：　堂満岳（1057m）　中級Ｃ

5 月 13 日（日）雨　担当　吉井利一　参加者 2 名

京都からJRの車窓から見る景色では、朝方に雨が降ったように見えた。

1本早い目の電車に乗り、比良駅で参加者を待ったが、学生に混じって石田さんの姿。何とか2名となり、例会は成立した。昨日の好天気では満員のバスと思われたが、さすがにこの雨では乗客も我々以外は、武奈ヶ岳に行く登山者 1 名のみ。

イン谷口の名前の由来となっている、「いんだばし」と言う橋を確認し、ノタノホリ（沼田の堀）

へ向けて歩き始める。堂満岳までは標高差 800mの登りである。ノタノホリは静かな池で、丁度この時期モリアオガエルが産卵し、木の枝に白い卵がぶら下がっているのを何回も見たが、少し時期が早かったからか今年は見ることが出来なかった。

登り始めてから 2 時間位、雨が激しくなってきたが、足元を確認しいつもより慎重に登った。山頂に到着するころには、少し雨も小降りになってきたので、立ったままで短い昼食タイムとした。ここまでが行程の約半分、登りはここまで。金糞峠から北比良峠のシャクナゲ街道は、わずかに花群を残すのみで、今年は 4 月下旬がピークになっていた。登山道は、雨に洗われた新緑の葉が美しい、霧がかかった幻想的な空間になっていて、私が雨の山も、趣を感じる所以である。汗と雨で濡れネズミになりながら、登山道をひたすら下る。下りは石の上が滑りやすいし、道が一部、川のように流れていて、アルプスで雨に遭った時を思い出しながら歩いた。

花は、シロヤシオ、ミツバツツジ、イワカガミ、タニウツギに、わずかに残っていたシャクナゲが見られた。山慣れしておられる石田さんと、一緒に歩くことが出来無事下山できたことに、感謝いたします。

コースタイム

イン谷口(8:35)～ノタノホリ(9:10)～堂満岳(11:00-11:10)～金糞峠(11:45)～北比良峠(12:15-12:20)～大山口(13:30)～イン谷口(14:00)

春季公開ハイク　丹波高原東部（北摂）：大峰山　初級 C

5 月 20 日(日)　晴れ　担当:北川隆史　参加者　28 名

初夏の明るい陽ざしのもと、JR 武田尾駅に会員 22 名、西宮市政ニュースや読売新聞の記事を見て申し込みされた一般から参加者 6 名の計 28 名が参集した。

廃線敷ハイキングコースに入るとすぐに 2 つのトンネルがあり足元が暗いので、ランプを点灯して通過する。桜の園入口前の広場でコース説明とストレッチ、一般参加の方の紹介をする。

桜の園入り口から「さくらの道」を登り始める。ひとしきり登ると東屋が現れ、コースは 3 つに分かれる。小休止の後、大峰山へ道を登り始める。標高差およそ 300m、約 1 時間のけっこう長い登路だ。長く緩やかな頂上稜線上の 510m 標高点辺りで小休止する。ここからさらに 15 分弱で大峰山頂上に到着。頂上三角点付近で昼食後、集合写真を撮影した。

下山は南尾根を下り、吊り尾根状を辿って、谷を隔て大峰山の南側を並行する山塊に向かう。「安倉(アクラ)山」と書かれた看板があちこちに付けてある台地状の雑木林の小路を西に入ったあたりで休憩する。この道は 465.0m 三角点を通っているが雑木林のピークは広く、公開ハイクで時間の関係もあり、465.0m 三角点を見つけることが出来なかった。

西への尾根沿いに下降していくとまもなく満月滝に下る道への分岐に出た。ここには指導標があるが、大峰山頂からここまでの間は指導標が全くないので地形図を持たないハイカーは迷い易いコースである。この分岐を入るとすぐに「つつじが丘展望所」に出る。山名を書いた展望図が設置されている。北摂から丹波のお馴染みの山々(大船、羽束、松尾、白髪、大岩、虚空蔵、西光寺、等)はもちろん、明神、七種、雪彦、笠形といった西播の名峰まで見晴るかせる素晴らしいパノラマに息をのむ。分岐に戻り、「遠見の道」を西へ辿り、「あかまつ展望所」から「どんぐりの道」に入る。下りにくい階段道を経て、ホオノキの巨木のある「城ヶ丘広場」で最後の休憩を取る。ゆるやかな山腹道を次第に谷へと下って行き、桜の園入口に帰り着いた。広場にてクールダウンのストレッチをして解散した。

コースタイム

JR 武田尾駅(9:30)～桜の園入口(9:50-10:10)～東屋(10:23-10:30)～大峰山頂上(11:45-12:30)～⚲ 465.0m 付近(12:50-12:55)～つつじが丘展望所(13:15-13:25)～城ヶ丘広場(13:57-14:08)～桜の園入口(14:25-14:35)～JR 武田尾駅(15:00)

<u>京都北山： 花脊峠～寂光院道</u> 中級 C

5 月 23 日(水) 担当:石田幸弘 参加者 4 名

・しばらく 30℃に近い暑い日が続き、夏が来たような感じだったが小雨の予報が出た。

・出町柳は小雨、参加者は4名。花背峠に着くとガスが出て気温 12℃、寒くて薄暗い。峠から北東に続く大見尾根沿いの北側には北方の花背山の家に向かう道があり、南側にはNTT鞍馬中継所へ向かう車道が走っている。尾根道もあるが雨なので車道を歩く。杉ノ峠で車道を見送り、広い林道を進む。チロル小屋跡を過ぎて和佐谷峠へ。ここは十字路になっていて、そのまま進むと滝谷山を経由して大見尾根が延々と続き北山の奥

地・八丁平へとつながる。左に降りると花背の里へ、ガスで山並みの見通しが悪く、皆で地図と磁石を出してルートファインディングを繰り返してやって来た。我々は右の百井の里へ下る。杉林の中の谷道は雨に濡れて露岩が滑りやすい。京都市百井青少年村キャンプ場はひっそりしていた。宿泊はキャンパーと山仕事の人がOKとか…。トイレはスリッパを履いて使用という事で、女性陣はカッパと靴を脱いで大変だったらしい。このあたりが安曇川の源流で、北東の平に向かって流れている。百井峠は源頭になるのかその百井峠に向かって車道を歩く。

・峠への途中から左の道に入り尾根を播いて南に向かう。展望台と言う表示があり尾根に上がったが、煙って南西の鞍馬方面は眺めが悪い。天ヶ岳への分岐を見送り、濡れた露岩の下りになった。寂光院道はどこが起点なのか時々看板が現れる。広く良く踏まれた道が続き、突然太い倒木が道を塞ぐ。去年の台風で倒れたらしいが、撤去はされず迂回道を通る。太さが50cm 以上も有り、簡単には切れないようだ。

・順調に下り尾根道も終わりに近づいた。東屋などの適当な昼食場所も無くてしゃくなげ尾根分岐で昼食。傘を木に掛けて小雨を避ける。シャクナゲの花は終わり、つつじは咲いていた。尾根道から左に下ると道が悪くなった。翠黛山や金毘羅山方面がメインルートらしい。寂光院に着いて初めて人に会った。しばし休憩してカッパを脱ぎ、くつろいで庭先の花を眺めながら歩く。

・皆の足並みが揃い、おかげで早い下山になった。しばし止んでいた雨も又降りだした。

コースタイム

京阪出町柳(7:50)＝花背峠バス停(9:10-9:20)～杉ノ峠(9:40)～和佐谷峠(10:00)～京都市百井青少年村キャンプ場(10:20-10:30)～百井峠分岐(10:45)～天ヶ岳分岐(11:10)～しゃくなげ尾根分岐(11:45-12:05)～尾根道より大原へ(12:35-12:45)～寂光院 (13:15-13:30)～大原バス停(14:00)解散

<u>関東山地　奥多摩：高尾山(599.3m)</u>　<u>八溝山地　茨城県：筑波山(877m)</u>

5 月 27 日(日)～28 日(月)　担当:藤堂尚久　参加者　5 名

5 月 27 日(日)　晴れ　初級 B

関東圏で都心から日帰り登山可能な人気の名山に登ろうという今回の企画。奥多摩・御岳山、神奈川・金時山、山梨・三ツ峠山等、数々検討の結果、高尾山と筑波山の 2 座を目指すこととした。初日の早朝、新大阪駅から新幹線、JR中央線、京王線と乗り継ぎ、高尾山口駅に 11 時前に到着。駅前広場には軽装ハイカーや登山者が多数集っている。高尾山は、年間登山者数が日本一の 300 万人といわれ、平成 19 年にはミシュランの三つ星に指定されている。高尾山自然研究路の内から、登りは 1 号路を行く。京王電鉄案内には「表参道コース」、「自然と歴史満喫コース」と紹介されている。山頂へは距離3.8km、標高差401m。概ね緩やかな傾斜、舗装された道が続く。かすみ台展望台付近からケーブルカーで来た人が合流、さる園、野草園、杉並木やたこ杉を通過、行楽地のような賑わいとなった。高尾山薬王院本殿では我々も参拝、

小休憩をとる。一部急登の山道を進み、まもなく高尾山山頂に到着した。

小さな広場にはビジターセンターや休憩・食事処があり、人であふれかえっている。天気は良く快適であるが、新宿の高層ビル群は薄霞がかかり、富士山は見えなかった。食事をとり周辺散歩を楽しんでのち、下山は 6 号路「びわ滝コース」を行く。距離 3.3km、1 号路とは対照的な「沢の水音に癒されるコース」である。渓流沿い、飛び石で沢の中を下っていく場所があり、途中の琵琶滝では行者が滝行をしていた。険しい山道歩きを楽しみ、ケーブルカー清滝駅そばまで下山、甘味処へ立ち寄りのどを潤す。高尾山口駅から列車を乗り継ぎ都内茅場町駅近くの宿舎へ入る。早めの到着で時間に余裕があり、夕食前に皇居外苑に向かった。市民ランナーの聖地、休日の夕暮れ、大勢のランナーが走っている流れに入り、桜田門はじめ多くの門、楠正成像、皇居内の緑の木々などを見ながらの周回ジョギングは心地よかった。

コースタイム

新大阪駅＝東京駅＝高尾山口駅(11:00)～高尾山自然研究路 1 号路(表参道コース)～展望台(11:50)～高尾山薬王院本殿(12:10-12:20)～高尾山山頂(12:40-13:25)～6 号路(びわ滝コース)～琵琶滝(14:15)～ケーブルカー清滝駅(14:35)～高尾山口駅＝新宿駅＝宿舎

5 月 28 日(月) 曇り

2 日目は日本百名山に名を連ねる筑波山への山行。標高 1000m にも満たない筑波山だが、その歴史の古さから選ばれたようで、男体山と女体山(最高峰)を持つ双耳峰である。つくばエクスプレス、シャトルバスを乗り継ぎ、筑波山神社入口のバス停に降り立つ。車道を進み、参道の階段を上れば名物のガマの油やガマの置物を並べたみやげ物店が連なっている。その先には荘厳さを感じさせる市指定文化財の筑波山神社随神門、そして本殿に到る。右手のケーブルカー乗り場への道を進むと鳥居があり、ここが「御幸ヶ原コース」登山道入口となる。標高差があり比較的険しいコースと言われている。深い森の中の道は、最初は緩やかだが、途中から急勾配になり木の根や露岩の道を登るようになる。中ノ茶屋跡、300 段超の木階段を過ぎると、木立が途切れて傾斜が緩く

なり、ケーブルカー山頂駅がある御幸ヶ原に着く。

左に 10 分ほど急坂を登れば男体山山頂である。展望もきかないので急ぎ下り、御幸ヶ原に戻り食事をとってのち、女体山を目指す。レストハウスや茶店、電波塔が立ち並ぶ遊歩道を 20 分程行くと最高峰女体山山頂に到着した。巨岩が積み重なったような山頂からは四方展望が開け、広い関東平野を一望、晴れた日には富士山も望めるのだが、本日は濃いガスが立ち込め何も見えない。女体山本殿脇の大岩の間から下って尾根沿いの道に出る。ブナ林や、大仏岩、胎内くぐり、弁慶七戻りなどの巨岩、奇岩の中を歩く変化に富む楽しいコースだ。弁慶茶屋跡からは「白雲橋コース」をたどり、筑波山の豊かな自然を楽しみ筑波山神社へと下山。わずか 2 日間であるが関東圏人気の 2 座山行を無事終えることができた。帰りのシャトルバスの時間待ちの間に日帰り温泉施設で汗を流し、一路帰路へ、最後は新幹線で午後 10 時 30 分、大阪へと帰ってきた。

コースタイム

宿舎＝つくば駅＝筑波山神社(9:35)～(御幸ヶ原コース)～御幸ヶ原(11:10-11:15)～男体山(11:25-11:30)～御幸ヶ原(11:40-12:20)～女体山(12:40-12:45)～弁慶茶屋跡(13:25-13:30)～(白雲橋コース)～筑波山神社(14:55)＝つくば駅＝東京駅＝新大阪駅

<u>生駒金剛和泉山脈：　大和葛城山</u>　初級 C

5 月 27 日（日） 晴　担当：山田昭則　参加者　22 名

富田林駅から水越峠のバス停に着き、参加者（22 名）の確認とストレッチを行い、下山ルートを天狗谷コースに変更したことで、葛城登山口バス停を 14 時 59 分発のバスに乗車予定で下山したいので、山頂での昼食休憩の時間を30分程度と短くする予定であると説明。天気がよく暑くなるので適時水分をとるようにすることなどの注意をしてスタートした。10 分ほど歩くと水越峠に着きここから大和葛城山の山頂まで 1 時間半ほど登りである。階段の急な登りなのでゆっくりペースで歩き、木陰がないところは暑いので適時水分をとるようにした。

葛城山頂の南側に群生しているヤマツツジは、今月のゴールデンウイークの頃が満開であったので終わってしまっていた。葛城山頂では展望もよく金剛山などが良く見えた。山頂広場で昼食を終えてからみんなで集合写真を撮って下山することとした。登りは意外と時間を要したので、下山も時間がかかるかも知れないが 2 時間もかからないだろうと思いながら天狗谷を下っていった。杉桧の樹林帯の日陰なので快適に下山できそうである。しかしながら谷筋にかかるとあちこち崩

落しており岩がむき出しであったりして、なかなかスムーズに進むことが出来なかったです。少しバスの時間のことを気にしたが無理をせず慎重に下っていきました。谷筋から離れ見通しが開けたのでバスに乗車できると安心し、10 分前にバス停に到着、全員の無事下山を確認して解散とした。

次回はツツジの満開の頃に登りたいです。

コースタイム

近鉄富田林駅＝水越峠バス停（10:37）～大和葛城山（12:25-13:00）～葛城登山口バス停（14:48）解散